

うるさい爆音に
苦情電話を!

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者 大波修二
事務所 大和市桜森3-5-3
フロント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



違法な爆音とオスプレイ飛来に抗議 (8月20日・厚木基地前)

また、6月4日に横須賀を出港した空母ロナルド・レーガンは7月26日に横須賀に戻り、艦載機はその前日の25日に厚木に帰還し、1週間後の8月1日に大島沖での訓練が開始されました。

オスプレイは今年に入り毎月のように厚木基地に飛来しています。3月に1機、4月に3機、5月に4機、7月に6機、8月にも5機が飛来しました。特に5月には長期にわたり厚木基地に駐機し、離着陸訓練を繰り返しました。本土のオスプレイ訓練・配備が推し進められる中、厚木基地は完全にキャンプ富士への中継基地と化しています。

違法な爆音をやめろ!

オスプレイの厚木飛来続く

18日に試験出航し、9月3日に本格出航しました。この間、8月23日から30日の間、硫黄島で連続離着陸訓練(FCLP)を行うとの通告があり、訓練のための往復飛行回数が増えました。

空母艦載機のパイロットはFCLPを終えた後、10日以内に洋上で空母への着艦資格取得訓練を受けるが、10日以内に行えないと再度FCLPをやり直す決まりになっています。

嘉手納爆音差止め訴訟結審に参加して

厚木爆同委員長(第四次厚木爆音訴訟原告団副団長) 大波修二

飛行差止めは当然

米軍嘉手納基地の周辺住民2万2054人が国を相手に、米軍機の夜間・早朝の飛行差止めと損害賠償を求めた第三次嘉手納爆音差止め訴訟の第24回口頭弁論が8月25日、那覇地裁沖縄支部で開かれ結審しました。私は全国基地爆音訴訟連絡会議の仲間とともに、この結審支援行動に参加しました。

法廷は10時に開かれ、弁論に立った新川原告団長は「第一次・第二次訴訟で米軍機騒音の違法性が認定されながらも、差止めが認められなかった結果、爆音は激化している」と指摘しました。さらに弁護団が訴訟を通じて、「①騒音による睡眠妨害とそれに伴う健康被害、②成長過程の子供への被害、



結審法廷に向かう嘉手納爆音訴訟原告団と支援者

③戦闘機墜落の恐怖」が立証されたと述べ、池宮城弁護団長は「良心に従って独立して職権を行うという憲法に定められた裁判官の原点に立ち返ると、差止めをするのは当然だ。原告や県民の思いを受

厚木爆同は8月20日、第四次厚木爆音訴訟原告団、基地撤去をめざす県央共闘会議、神奈川平和運動センターの仲間たちと連帯し、「違法爆音をやめろ!厚木基地はいらない神奈川集会」を開催し、抗議のデモ行進を行うとともに、8月25日〜30日の間、オスプレイ監視・抗議行動を行いました。

基地周辺の航空機騒音と墜落の不安はますます高まっています。爆音がうるさい時は、市役所など関係機関にどんどん苦情電話をかきましょう。



毎月のように厚木基地に飛来するオスプレイ (8月25日)

けた判決を確信している」と強調しました。

日本全国で基地爆音訴訟を進める6訴訟団の弁護団も法廷に立ち、支援の弁護を展開しました。

ヘリパッド工事再開に抗議

私たちは翌26日、住民の反対を無視してオスプレイのヘリパッド(着陸帯)建設を強行する東村高江地区(沖縄県北部)の工事現場に行き、建設阻止闘争に参加しました。

国は貴重な動植物が生息する森林を破壊し、静かな環境で生活したいと願う住人の思いを無視して、全国から機動隊を動員(神奈川県警も派遣)し暴力的にヘリパッド建設工事を再開しています。

この日も高江住民と支援者は基地の側道に乗用車を十数台止めて道路を完全封鎖し、砂利を満載した工事車両6台を約3時間止める闘いを展開しました。不当にも1名が拘束される事態も発生しましたが、「私たちは負けない、断固抗議し闘い抜く」と決意を述べる現地の人々の声を聞き、さらなる連帯の強化を痛感しました。

原水禁広島大会参加報告

厚木爆同副委員長 石郷岡 忠男

核兵器も原発も

8月4日、まさしく夏真っ盛りの広島に着いた。約1キロのデモ行進を行い開会総会に向かった。会場は広島県立総合体育館。全国から集まった三千人以上の仲間たちと共に、「被爆71周年 原水爆禁止世界大会」が始まった。

会場は熱気に包まれ、様々な人たちの挨拶や発言が重く受け止められた。私は今回で3回目の参加だが、以前と比べて全体のテーマが少し変わってきたような気がした。前回までは戦争に

かかわる核兵器の問題が主流であったが、今回は核兵器だけでなく人間一人ひとりの生命の大切さを訴える大会だったような気がした。核兵器だけでなく、原発の問題もここにかかわって来るという事だ。

日本も「核保有国」

基調提案の中で気になったのは、日本には45t以上のプルトニウムが在庫としてあるという事だ。45tのプルトニウムの在庫とは広島原爆六千発の量である。だから諸外国の中では、日本

との説明の後、本部から出席した4名の役員が紹介された。大波委員長からは「アメリカが私

たちを苦しめている。安倍がそれ handsを貸している。集団的自衛権の行使やオスプレイの飛来など危険な状態だ。」との挨拶があった。

座間支部交流会ひらく

院選挙における社民党への応援の礼、同じく会員の座間市会議員の沖永さんから「オスプレイの飛行停止意見書採択」の経緯が話された。

また、NHK受信料問題では萩窪書記長から新しいパンフレットの解説を含めて詳しい話があった。仲間の拡大取り組みの提起では、高久支部長から基地騒音には皆で声を出してい

が非核三原則を守ると言っても「日本は核保有国である」と公言している国もある。福島原発事故では、このあと何十年、何百年かかって、元の福島に戻るのだろうか。本当に恐ろしい事だと思う。

安倍政権下で「戦う自衛隊」

8月5日、大会2日目は各分科会が行われた。私は第3分科会の「平和と核軍縮」憲法・沖縄・平和を考える」を題材に、軍事評論家の前田哲男さんの講演に参加した。講演では諸外国の軍隊と日本の自衛隊の比較が印象的だった。

外国の軍隊は軍縮が着々と進んでいるのに、自衛隊は装備、人員、予算とも増強されているのは何故だろうか？。内閣府世論調査によると国民が望んでいるのは、「戦う自衛隊」ではなく「は

くことの重要性や四次訴訟の行動、さらに五次訴訟の準備状況などの話があり、今後も爆同の加入呼びかけを強めていくことを確認した。

最後に、沖縄基地問題で、参加者の須藤さんと田口さんから、本土の新聞には書かれていない高江のヘリパット建設阻止の状況を、琉球新報のコピー等の資料を示しながら「住民が160人ほどの集落に900人の機動隊が集まって弾圧をしている」などと報告された。

その後、折目支部長の乾杯で第二部の懇親会と続いた。高久支部長が収穫した野菜を使って、地元のみが丘の女性会員による手作りの料理とお鮓を食べながら、和気あいあい意見交換が行なわれた。参加者は24名であった。

(座間支部・中野渡 強志)

たらく自衛隊」であるとの数値がはつきり示されている。だが安倍政権下ではこうした民意や情勢に逆らって「戦う自衛隊」化政策を着々と進めようとしている。これは断固許すことはできないとつくづく思う。

講演終了後、各地の報告として神奈川県平和運動センターの小原事務局長が厚木基地の現状について報告し、私も爆音訴訟の賠償金が本来支払うべき米国ではなく、日本が肩代わりし米国は一切支払っていない事実を報告した。

未だ続く原爆後遺症

8月6日、原水禁大会最終日は平和館野墜落事故現場を平和慰霊公園に

平和慰霊公園に

1964年9月8日、厚木基地を飛び立った米軍機が大和市上草柳の館野鉄工所に墜落、館野兄弟三人など五人が死亡するという事故がありました。

爆同・九条の会・平和委員会などで結成した墜落事故慰霊実行委員会は、五十周年にあたる一昨年現地に木碑を建て、市内で市民集会を開きました。

事故現場は防衛省管轄の国有地でフェンスで囲まれています。碑の建つ土地2・25㎡には年間九千五百円、慰霊祭のために立ち入るには一万六千円の使用料が徴収されます。

普段は敷地内の碑に近づいて線香や花を上げることができないし、慰霊事業を市民団体が維持し続けるには限界があるので、市が国から土地を借りて仮称「平和のための慰霊公園」にしてほしいという署名を集め、9月市議会に陳情しました。署名は市内・県内か

公園で行われた式典に参加した。猛暑と蝉時雨の中、厳かに式典が始まった。ものすごい人込みの中で、広島市長をはじめ多くの代表が挨拶したが、子供代表の挨拶が印象的だった。通り一遍の白々しい安倍首相の挨拶より、子供たちの言葉が感動的で心に残ったのは私だけだろうか？。

3日間の大会を通じて強く印象に残ったのは、原爆投下から71年も経っているのに、未だに後遺症等で苦しんでいる人たちが多数いるという現実だ。福島原発事故の後始末も、この先どの位かかるのだろうか？

9月6日、大和市議会文教委員会では、三人の議員が賛成しましたが、古木・古谷田議員は「市議会はすでに平和祈念館を建てる決議をした。館野事件もそこに展示する。艦載機が岩国へ移転すれば墜落の危険は減る。現地にはいろんな意見がある」と公園の必要性に疑問を呈しました。議論の中、突然公明党河端議員が「とどめ」動議を提出。動議は3対3の賛否同数だったが、自

民党の中村委員長が審議打ち切りとし、結果、陳情は市議会の議題にはならな

いことになってしまいました。事故で三人の兄を失った館野義雄さん(64歳 西東京市)は、「事故で家族が崩壊して東京に移ってからは辛くて大和に来られなかったが、その後何度も来ました。以前は自由に入れたが今は入れない。公園ができて事故のことを市民が忘れず、二度と事故が無いようにしてほしい」と話していました。

慰霊公園の闘いはまだ続きます。今後もこの運動を積極的に支えましょう。

和気あいあい意見交換した座間支部交流会

